

春施肥への変更によるニホンナシの発芽不良発生軽減効果

施肥時期を秋から春に変更することにより、凍害による発芽不良発生を軽減できる

背景・目的

- ・西南暖地では、秋冬期の高温や秋施肥での樹体内窒素含量の増加等により、耐凍性の獲得が阻害され、凍害による発芽不良が発生
- ・今後の安定生産のため、発芽不良の発生を軽減できる技術の開発が必要

成果の内容

- 施肥時期を秋(9,10,11月)から春(3月)に変更
- 凍害発生温度(凍害が発生するおそれがある温度)が下がることで、耐凍性が向上
- 耐凍性の向上により、発芽不良の発生が軽減
- 施肥時期を変更したことによる、果実への影響は無

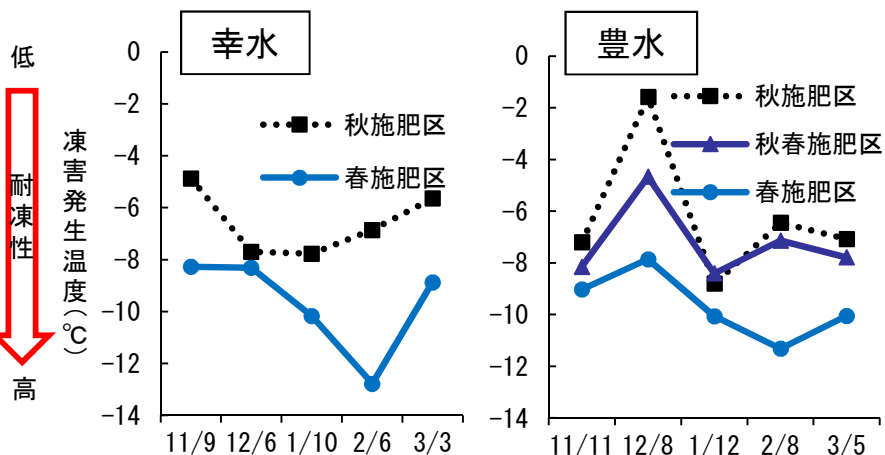


図 施肥時期の違いが凍害発生温度の推移に及ぼす影響

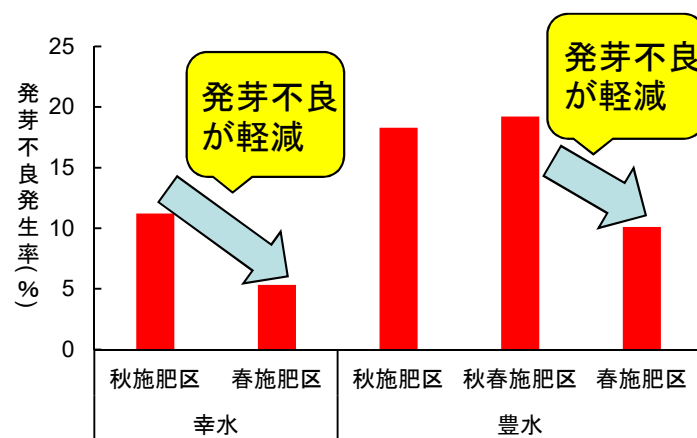


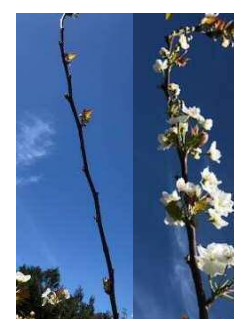
図 施肥時期の違いが発芽不良発生率に及ぼす影響

表 施肥時期の違いが果実品質に及ぼす影響

処理区	果実重 (g)	地色色票値	糖度 (° Brix)	果実の酸度 (pH)	収量 (kg/m ²)	
幸水	秋施肥区	336	2.8	12.2	5.4	2.2
	春施肥区	352	2.8	12.0	5.4	2.3
豊水	秋施肥区	430	3.9	12.6	4.9	3.5
	秋春施肥区	425	3.9	12.6	4.8	3.6
春施肥区	426	3.9	12.8	4.8	3.6	

導入メリット

○耐凍性が向上することで、翌春の発芽不良の発生が軽減



左:発芽不良発生枝 右:正常枝

発芽不良が軽減されることで、暖冬年でも安定した収量の確保が可能

期待される効果

気候変動条件下におけるニホンナシの生産安定化

普及対象・範囲:ニホンナシ農家